2022年1月27日(木) 舞鶴幼稚園ミニ講演会(楢崎)

知ってころ丈夫に 病気・薬・予防接種

## 1、病気についての基礎知識

主に感染症について

#### 感染症とは・・・

ウィルス、細菌、真菌(カビ)などの微生物によって起こる病気

伝染病…人から人へうつる病気

#### ウィルスによって起こる主な感染症

手足口病 リンゴ病(伝染性紅斑) 風疹 水ぼうそう(水痘) インフルエンザ 突発性発疹 ヘルパンギーナ クループ症候群 おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)はしか(麻疹) プール熱(咽頭結膜炎) コロナウィルス感染症 ノロウィルス感染症 ロタウィルス感染症

### 細菌によって起こる主な感染症

細菌性扁桃炎

細菌性中耳炎

細菌性肺炎

尿路感染症

とびひ(伝染性膿痂疹)

百日咳

溶連菌感染症

#### 真菌(カビ)によって起こる主な感染症

みずむし(白癬菌) カンジタ

#### その他

マイコプラズマ

#### 風邪を起こす原因の割合

ウィルスが大半、細菌は少数

細菌に対抗できるのは抗生物質ウィルスに対抗できるのはワクチン(予防接種)

どちらにも対抗できるのが免疫機能

#### 「風邪」の定義(『医学書院 医学大辞典』)

かぜ症候群〔急性上気道炎〕

上気道粘膜の急性炎症の総称であるが、病変は下気道にまで及ぶこともある。 原因は感染によることが多く、ほとんどはウィルスによる感染症である。軽い鼻 症状の普通感冒から、全身症状の強いインフルエンザまでさまざまである。

多くの人が1年に1回以上かかり子どもの場合はかかる回数が多い。鼻水、鼻づまりなどの鼻症状を主体とする鼻かぜ、のどの痛み、声がれなどを主体とするのどかぜ、せき、痰を主体とする気管支かぜ、全身症状の強いインフルエンザなどさまざまの病型がある。

鼻かぜはライノウィルス、RSウィルス、コロナウィルスが、のどかぜはアデノウィルス、コクサッキーウィルス、パラインフルエンザウィルス、気管支かぜはアデノウィルスやパラインフルエンザウィルスのほかマイコプラズマやクラミジアが起こしやすいとされる。診断は臨床的なものであり容易であるが、原因ウィルスの検索は困難で、インフルエンザ以外、一般的には行われていない。

かぜ症状を呈する、あるいはかぜ症状で始まる他疾患との識別が重要である。予後は通常良好で、数日~1週間で軽快する。

2、「症状」はなぜ起こるのか

抵抗力、免疫について

#### 様々な風邪症状

発熱 腹痛 嘔吐 下痢 発疹

頭痛 咳 炎症 鼻水 くしゃみ

身体の中に入り込んだ異物(ウィルス、細菌、アレルギー物質など)を排出したりやっつけたりするための抵抗作用

風邪の定義

「予後(経過)は通常良好で、数日~1週間で軽快する」

特に治療をしなくても自然に治る

… 薬は何のためにあるの?

→ つらい症状をやわらげるため (対症療法)

おたふくかぜにはなぜ2度かからないか

→ 獲得免疫による

#### 自然免疫と獲得免疫について

獲得免疫を人工的につけるのが予防接種(ワクチン)

#### 風邪の効用

風邪を経過することで身体が整うという考え

ウィルスや細菌にさらされることで徐々に抵抗力が増す

(過度の清潔や除菌は身体を弱くする可能性)

## 3、薬について

薬を飲まなきゃ治らない?

・薬の歴史薬と毒は裏表

・必ず副作用がある

・風邪を治す薬はない

・医療と薬業の関係性

## 薬の使い方を考える

- ・薬の名称
- 鎮痛剤、解熱薬
- ・抗生物質、抗ウィルス薬
- ※自分で知り、考え、決めること
- ※分からなければ医者に訊くこと

# 4、予防接種(ワクチン)について

全部受けなきゃいけないの?

## ワクチンの基礎知識

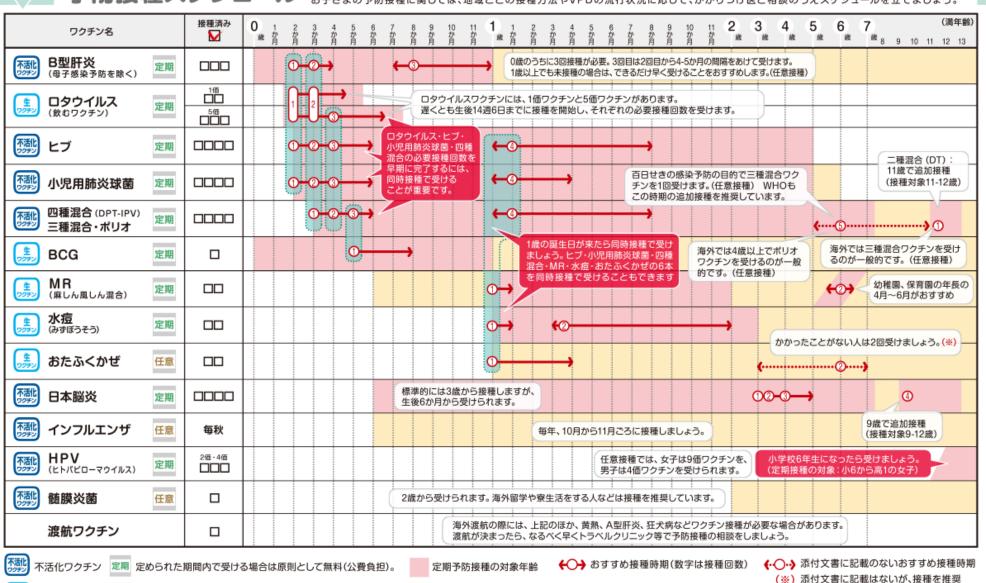
種類 生ワクチン 不活化ワクチン トキソイド mRNAワクチンウィルスベクター

・行政 定期接種と任意接種



#### 予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種 を受けることが重要です。このスケジュールはNPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。 お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医と相談のうえスケジュールを立てましょう。



生ワクチン

多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。 任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。

任意接種の接種できる年齢

●異なる種類の注射の生ワクチン同士の接種間隔は最短で4週間です(4週間後の同じ曜日から接種可)。

同時接種:同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。 国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。 **詳しい情報は https://www.know-vpd.jp/** 

## 5、質疑応答·座談会

コロナ禍についての意見交換